

障害のある労働者の職業サイクルに 関する調査研究(第6期)結果報告 —仕事をする理由と仕事の満足度の関係—

- 大石甲（障害者職業総合センター 研究員）
高瀬健一、田川史朗、田中あや（障害者職業総合センター）



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門
社会的支援部門

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」の概要

調査の目的

- 障害のある労働者の就職、就労の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を長期継続調査により明らかにすることを目的として、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就労の実現に向けての今後の施策展開の基礎資料を得る

【職業サイクル】とは
「ライフサイクル」からの造語であり、本研究では障害者に特有のサイクルやパターンの特定を目的とせず、「キャリア」と同様の意味として、より柔軟な視点をもって考えている

調査対象者

対象者

- 企業や自営業で週20時間以上働いている障害のある労働者を対象
- 離職後も調査を継続して、キャリア形成の状況を確認

募集方法

- 各障害の当事者団体や家族団体、障害者を多数雇用する事業所、就労支援施設等を通じて対象者を募集
- 調査の趣旨を説明し、同意が得られた場合に調査対象者として登録

対象者の補充

- 調査対象者の減少と回収率の低下により、第3期調査に際して調査対象者の補充を行った

パネル調査として計画

パネル調査とは

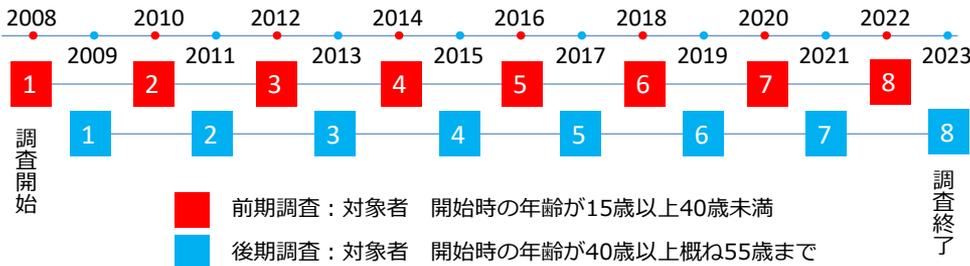
同じ対象者に一定間隔で同じ質問をたずねる調査方法

パネル調査の歴史

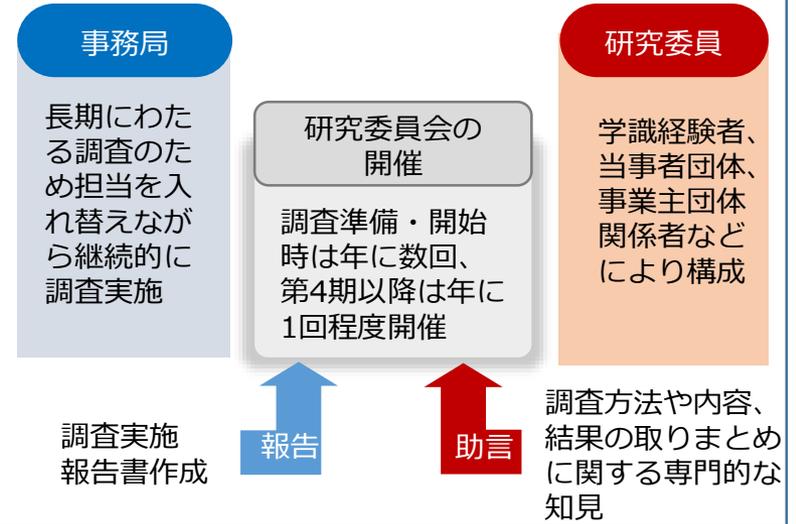


本研究のパネル調査

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害のある方約1200名を対象として下記のスパンで16年間継続的に調査を実施



実施体制



※障害のある労働者を対象としたパネル調査としては国内随一のものであり、各方面から注目されている

調査の実施方法

調査方法

7/1 調査日に指定

↓ 調査票を対象者に郵送

8/末 回収完了（目標）

調査票の形式

通常版、ルビ版、点字版、
テキストファイルCD版、
WordファイルCD版、etc.

※障害状況に合わせて対象者が選択

調査内容

職業生活を幅広く確認

対象者の基本属性



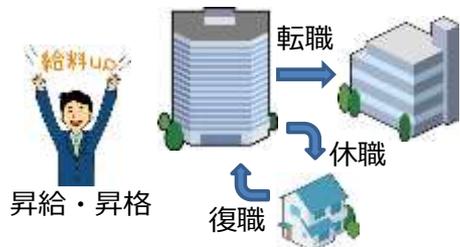
障害種類
年齢
性別
学歴
家族
etc.

就労状況



- 就労形態
- 職務内容
- 労働条件
etc.

仕事上の出来事



仕事に関する意識



- 仕事の満足度
 - ・ 仕事の内容
 - ・ 給料や待遇
 - ・ 職場の人間関係
 - ・ 職場の環境
- 職場への要望
etc.

その他、私生活上の出来事（結婚、出産、転居等）
偶数期のみ：地域生活、医療機関の受診状況、
福祉サービスの利用状況、
体調や健康に関する相談先等
奇数期のみ：年金受給の有無、収入源、
経済的なことに関する相談先等

これまでの成果物



「資料シリーズ50」
「資料シリーズ54」



「調査研究報告書106」
「調査研究報告書118」
「調査研究報告書132」
「調査研究報告書148」

2020年度の取組

- 2020年8月に第7期前期調査を実施
- 2021年3月に第6期調査の結果をとり
まとめた調査研究報告書を発刊予定

この発表について

この発表の目的

- 本調査研究では、調査研究委員会における議論を踏まえて、第4期報告書から働く障害者の仕事の満足度への影響について分析している
- これまで就業条件、職場の配慮状況、仕事上の出来事、生活上の出来事など、様々な要因との関係を明らかにしてきた¹⁾ ²⁾
- この発表では、第4期から追加調査している本人側の「仕事をする理由」と「仕事の満足度」の関係について、新たに分析した結果を報告する

この発表の分析方法（次のスライドへ続く）

■ 分析データ

- 「仕事をする理由」は第4期後期調査から追加した調査項目である
- そのため、前期調査、後期調査とも回答が得られた第5期、第6期の調査結果を分析データとした

■ 目的変数（仕事の満足度に関する変数）

- 主観的な仕事の満足度を測定する4項目を分析に使用
「仕事の内容」「給料や待遇（労働条件等）」「職場の人間関係」「職場の環境（施設整備等）」
- それぞれ、「不満 = 1」から「満足 = 5」までの5つの選択肢で回答を得た
- 仕事の満足度の4項目は平均と分散が異なることから、仕事の満足度を代表する一つの変数へ統合した
- まずは第5期と第6期の仕事の満足度4項目の調査結果それぞれを平均0、分散1になるよう右の計算式により標準化した
- 標準化した仕事の満足度4項目の数値を加算して「仕事の満足度総合点」を作成し、目的変数とした

$$\text{標準化の計算式} \quad \frac{x - x \text{の平均}}{x \text{の標準偏差}}$$

この発表について

この発表の分析方法（前のスライドからの続き）

■ 説明変数（仕事をする理由に関する変数）

- 本人側の仕事をする理由を測定する7項目を分析に使用した

「収入を得るため」「社会とのつながりを持つため」「社会の中で役割を果たすため」「自分自身が成長するため」「生きがいや楽しみのため」「生活のリズムを維持するため」「心身の健康のため」

- それぞれ、「あてはまらない = 1」から「あてはまる = 5」までの5つの選択肢で回答を得た
- 7項目の点数をそのまま説明変数とした

■ 調整変数（障害の種類に関する変数）

- 分析にあたり障害の種類の影響を除くため、各障害の種類を調整変数とした

「視覚障害」「聴覚障害」「肢体不自由」「内部障害」「知的障害」「精神障害」

- 調整変数は0か1のダミー変数へ変換した

視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・内部障害・知的障害を0か1のダミー変数とし、すべて0の場合を精神障害とした

■ 統計分析方法

- 統計分析には重回帰分析を使用し、変数選定には強制投入法を使用した

目的変数「仕事の満足度総合点」、説明変数「仕事をする理由」、調整変数「障害の種類」

- この手順により、障害の種類の影響を除く、仕事をする理由が仕事の満足度へ及ぼす影響を整理した
- 分析には「IBM SPSS Statistics」を使用した

分析結果（次のスライドへ続く）

■ 分析対象及び記述統計量

- 仕事の満足度 4 項目と仕事をする理由 7 項目にすべて回答のあった者を分析した
- 第 5 期調査結果は522人が分析対象、第 6 期調査結果は462人が分析対象となった
- 分析に使用した変数の記述統計量を表 1 に示した
- 留意事項

仕事の満足度 4 項目それぞれの標準化には、回答結果を最大限活用するため、各項目に回答の得られた者の結果を用いた

一方、仕事の満足度総合点の作成には、仕事の満足度 4 項目すべてに回答の得られた者の結果を用いて加算し、一部でも回答に欠損があった場合は分析から除外した

このため、仕事の満足度総合点の平均は 0 にはならない

表 1 分析に使用した変数の記述統計量

変数名		第 5 期 n=522		第 6 期 n=462	
		M	SD	M	SD
仕事の満足度	仕事の満足度総合点	-0.08	3.15	-0.05	3.20
	（仕事の内容）	(3.98)	(0.94)	(3.96)	(0.94)
	（給料や待遇（労働条件等））	(3.47)	(1.22)	(3.57)	(1.19)
	（職場の人間関係）	(3.60)	(1.13)	(3.71)	(1.06)
	（職場の環境（施設整備等））	(3.69)	(1.06)	(3.75)	(1.05)
仕事をする理由	収入を得るため	4.78	0.59	4.81	0.55
	社会とのつながりを持つため	4.16	0.98	4.15	1.02
	社会の中で役割を果たすため	4.05	1.03	4.05	1.03
	自分自身が成長するため	4.07	1.05	4.02	1.03
	生きがいや楽しみのため	3.96	1.09	3.93	1.11
	生活のリズムを維持するため	4.09	1.03	4.15	0.99
	心身の健康のため	3.93	1.10	3.92	1.10
障害種類	視覚障害	55人		44人	
	聴覚障害	106人		97人	
	肢体不自由	105人		88人	
	内部障害	65人		58人	
	知的障害	138人		123人	
	精神障害	53人		52人	

分析結果（前のスライドからの続き）

■ 第5期の分析結果

- モデルの説明率は $R^2 = .233$ であり有意であった($F(12,509)=12.85, p<.01$)
- 仕事をする理由のうち、下記3つを重視するほど、仕事の満足度総合点が有意に高かった
 - 「社会とのつながりを持つため」($\beta=.15, p<.01$)
 - 「社会の中で役割を果たすため」($\beta=.13, p<.05$)
 - 「生きがいや楽しみのため」($\beta=.15, p<.01$)

■ 第6期の分析結果

- モデルの説明率は $R^2 = .254$ であり有意であった($F(12,449)=12.75, p<.01$)
- 仕事をする理由のうち、下記2つを重視するほど、仕事の満足度総合点が有意に高かった
 - 「社会の中で役割を果たすため」($\beta=.22, p<.01$)
 - 「生きがいや楽しみのため」($\beta=.14, p<.05$)

■ 多重共線性

- VIFは最大で3.44であり、両分析とも多重共線性の問題はなかった

表2 仕事の満足度総合点を目的変数とした重回帰分析結果

変数名		標準偏回帰係数	
		第5期	第6期
説明変数 (仕事をする理由)	収入を得るため	0.035	0.058
	社会とのつながりを持つため	0.151 **	0.079
	社会の中で役割を果たすため	0.133 *	0.225 **
	自分自身が成長するため	0.019	-0.026
	生きがいや楽しみのため	0.149 **	0.141 *
	生活のリズムを維持するため	-0.048	-0.037
	心身の健康のため	0.059	0.076
調整変数 (障害の種類)	視覚障害ダミー	0.074	0.097
	聴覚障害ダミー	-0.062	-0.057
	肢体不自由ダミー	0.031	0.129
	内部障害ダミー	0.092	0.065
	知的障害ダミー	0.199	0.203

* $p<.05$, ** $p<.01$

考察

- 障害者が仕事をする理由として重視することと、主観的な仕事の満足度の関連について分析した
- 本分析で有意だった3つの仕事をする理由のうち、2つは第5期・第6期調査結果とも有意だった
 - 「社会の中で役割を果たすため」
 - 「生きがいや楽しみのため」
- 「社会の中で役割を果たすため」と「生きがいや楽しみのため」は、その影響プロセスは不明ではあるが、調整変数として障害の種類の影響を除いてもなお、比較的一貫して仕事の満足度へ影響することが確認された
- 留意事項
 - 本分析の分析モデルの説明率は2割程度に留まり、仕事の満足度全体の説明に十分なものではなかった
 - 仕事をする理由として重視したことが実現または実現せず満足度が変化するには、本人の障害の状況や企業の状況、支援の状況など多くの要因が関係すると考えられる
- 以上を踏まえると、障害者が仕事をする理由は、主観的な仕事の満足度の一部分を説明するものである
- 仕事の満足度には仕事をする理由の他にも様々な要因が関連することが示唆され、それらは本調査研究で過去に実施した分析で確認された要因が含まれると考えられる

結論

- 本調査研究では、「仕事の満足度」に多くの要因が関連することがこれまでに明らかにされている¹⁾²⁾ことを考慮すると、これまでに報告されている要因に加えて、本分析で扱った本人側の「仕事をする理由」を含めて検討を継続していく必要性が示唆された

引用文献

- 1) 障害者職業総合センター：障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第5期）「調査研究報告書No.148」,障害者職業総合センター（2019）
- 2) 障害者職業総合センター：障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第4期）「調査研究報告書No.132」,障害者職業総合センター（2016）